

資料 5

第5次三島市総合計画

骨子案策定の経過

～策定の流れ～



1 基本構想策定の基本的な考え方

多くの皆さんからの意見を取り入れながら方向性を検討する。

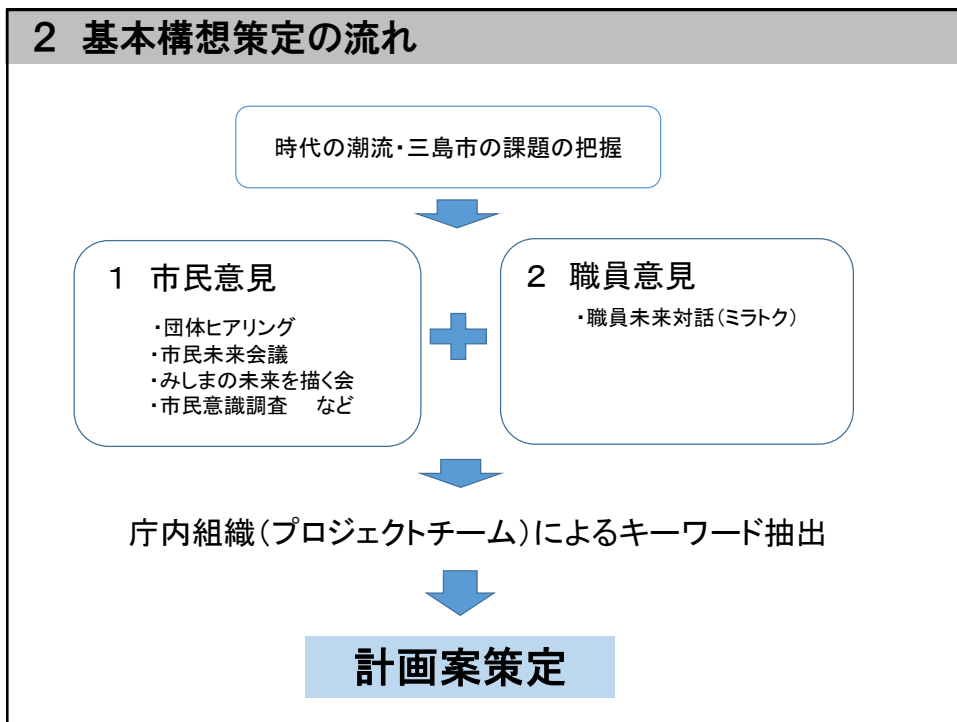


役割

- ① 市民・行政が共にまちを創る指針
- ② 行政の取組の指針



2 基本構想策定の流れ



3 計画策定の背景 ～時代の潮流～

近年の日本を取り巻く社会情勢や環境の変化を以下のように整理し、課題として捉えました。

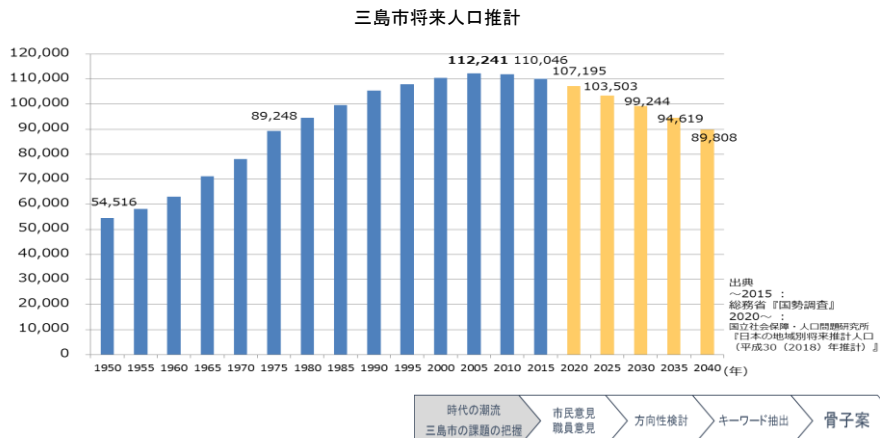
- 1 人口減少、少子高齢化社会の進展
- 2 生涯活躍できる社会の実現
- 3 ライフスタイルや価値観の多様化
- 4 安全・安心な暮らしの構築
- 5 国際化の進展
- 6 Society5.0の実現
- 7 持続可能な開発目標(SDGs)の推進



3 計画策定の背景 ～三島市の課題～

1 人口減少、少子高齢化社会への対応

三島市の総人口は平成17年(2005年)をピークに減少し続けています。人口減少、少子高齢化の進行は、経済活動を支える生産年齢人口の減少による人手不足や地域経済の停滞、空き家の増加、扶助費をはじめとした社会保障関係費用の増加、認知症高齢者増加への対応等、市民の暮らしや地域社会に様々な問題が生じると考えられます。



3 計画策定の背景 ～三島市の課題～

2 激甚化・多様化する危機管理事業への対応

大規模な地震、台風の大型化や局地的な集中豪雨などの風水害や土砂災害、新たなウイルスへの対応等、暮らしの安全を取り巻く環境は激甚化、多様化しています。また、高齢者の交通事故や特殊詐欺(振り込み詐欺等)の増加、複雑化・多様化する消費者トラブル等に対して、時代に合わせた対応が求められています。

3 拠点ネットワーク型コンパクトシティの形成

今後も三島らしく住みやすい環境を維持するためには、各地域の拠点となる箇所に都市機能を、その周辺に居住をそれぞれゆるやかに誘導し、それを公共交通でつなぐ「三島市版の拠点ネットワーク型コンパクトシティ」を形成していく必要があります。

4 地域経済の活性化

平成7年をピークとした生産年齢人口の減少や若年層の転出超過といった人口構造の変化などにより、地域経済の担い手不足が進行しており、地域経済の好循環を実現していくためには、女性や高齢者の就労支援をはじめとした人材の確保、市内企業の盛業化や地元での消費や投資の増加などが大きな課題といえます。



3 計画策定の背景 ～三島市の課題～

5 効率的な行財運営

高齢化の進行とともに、扶助費をはじめとした社会保障関係費用など、多額な財政需要が見込まれる中、行財政運営のさらなる効率化と、賑わいや活気を生み出す施策の両輪の取り組みが必要です。

6 公共施設の適切な管理

昭和40～50年代に集中的な公共施設整備が進められ、近い将来、これらの公共施設が一斉に改修や建て替えの時期を迎えます。また、少子高齢化の進展などで、公共施設に求められる役割が変化中、長期的な視点を持ち財政計画と整合した総合的かつ計画的な管理・運用が求められています。

7 協働から共創へ取組の進化

人口減少・少子高齢化の進展、市民ニーズの複雑・多様化する中、今後、行政だけが公を担うのは難しい局面が想定されています。協働の取組による市民主体のまちづくりを一步進め、市民・団体・企業・行政等が互いに連携・協力し、個々の持つ知識や経験を最大限に生かし、地域課題の解決に取組むとともに、目標設定や提供する価値の設定段階から共に考え、創りあげていく「共創」の取組が必要とされています。



4 市民参画による基本構想づくり

総合計画策定に向けて、多くの市民の方に意見を伺いました。

① 団体ヒアリング 33団体 約250人

<ヒアリング内容>

- ・2030年の三島市のあるべき状態とは？
- ・それに向かう課題とは？



② みしまの未来を描く会 24名参加

* 例年実施している女性の視点によるまちづくりワークショップ（市民生活相談センター主催）を総合計画の策定に合わせ実施。

<検討内容>

- ・三島の良い点悪い点
- ・あるべき姿と改善点
- ・キャッチフレーズ



③ 市民未来会議 全5回 約50名参加

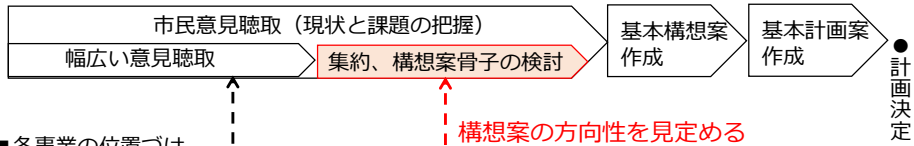
<検討内容>

- ・未来の三島市に残したいモノ・コトは？
- ・各分野のあるべき状態とは？
- ・それに向かう課題とは？

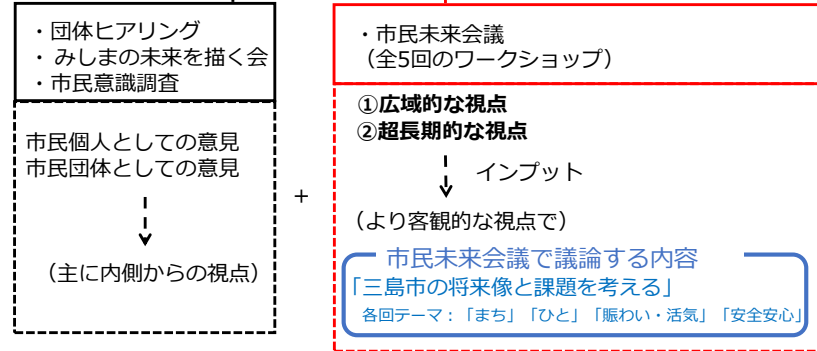


4 市民参画による基本構想づくり ～位置づけ～

■第5次総合計画策定の流れ



■各事業の位置づけ



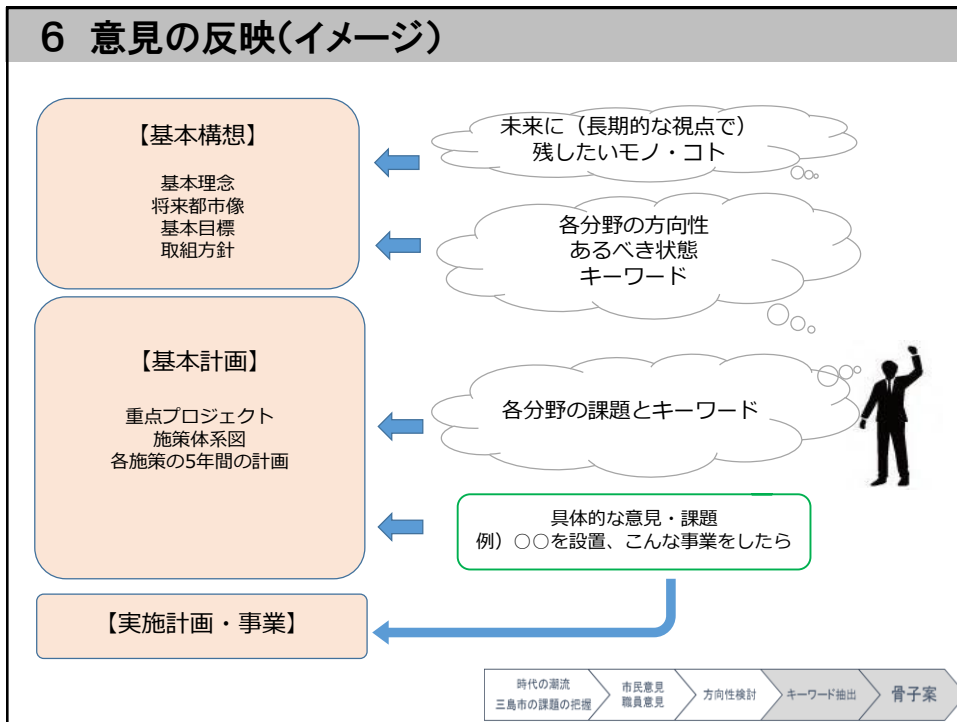
5 職員参画による基本構想づくり

計画を実行する職員の参画意識を高めるとともに、市民意見を多くの職員が共有し策定に生かすことを目的に行いました。

- ①職員未来対話(ミラトク)の実施 参加294名
上司と部下1対1で未来の三島のあるべき姿を対話
- ②庁内組織(プロジェクトチーム)によるキーワード抽出
市民意見・職員意見をプロジェクトチームメンバーで読み
キーワードを抽出



6 意見の反映(イメージ)



7 キーワード抽出と骨子の作成

